

令和4年度 児童発達支援センター「つみき」における自己評価結果（公表）

公表：令和5年3月22日

事業所名 甲賀市児童発達支援センター「つみき」 職員20人全員回答

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・クラス内でグループに分かれるなど、療育プログラムを工夫している。	
	②	職員の配置数は適切である	○		・配置基準を十分満たした配置数となっている。	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・環境、設備ともに適切である。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・活動に合わせた空間となるよう、クラスミーティングなどで、意見を出し合い対応の工夫をしている。	
	⑤	適切な感染対策が取れている。	○		・必要に応じて部屋や玩具の消毒をし、定期的に換気を行っている。	
業務改善	⑥	業務改善を進めるためのPDC Aサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		・日々療育前のミーティングや終了後の振り返りをクラスごとに行うとともに、全職員での会議を毎月行っている。	
	⑦	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・適切に実施できている。	
	⑧	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公表している	○		・市のホームページで公開している。	
	⑨	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		・今後、必要に応じて第三者による評価についても検討していけるとよい。
	⑩	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・職員全員が外部研修を受けられるように計画し実施し資質向上を行っている。 ・スーパーバイズの指導日は、内部研修の機会とし学びを共有している。	

適切な支援の提供	⑪	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○	・児童発達支援管理責任者と担当指導者が個別支援会議を行い計画を作成している。	
	⑫	子どもの発達の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○	・新版K式発達検査等を使用している。	
	⑬	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○	・個別支援会議の中で支援に必要な項目を検討し、具体的な支援内容を設定している。	
	⑭	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○	・クラスでの活動プログラムを通して、支援目標について取り組めるようにしている。	
	⑮	活動プログラムの立案をチームで行っている	○	・適切に実施できている。	
	⑯	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○	・クラス担任中心に支援ニーズにあわせて活動プログラムを立案している。	
	⑰	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○	・クラス活動（集団活動）を基本としながら、必要に応じて個別活動を取り入れている。	
	⑱	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○	・適切に実施できている。	
	⑲	支援終了後には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○	・適切に実施できている。	
	⑳	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○	・適切に実施できている。	
	㉑	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○	・適切に実施できている。	
	㉒	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	・適切に実施できている。	

連携関係機関や保護者との連携

②③	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		・対応が必要なケースは連携して支援に取り組んでいる。	
②④	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			★今年度は該当なし	
②⑤	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			★今年度は該当なし	
②⑥	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・移行支援として、園と必要な連携を図っている。	
②⑦	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・移行支援として、就学先と必要な連携を図っている。	
②⑧	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・専門機関から定期的にST、PT、OTに来所していただき、指導助言や研修を受けている。	
②⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○		・ほとんどの利用者が園との併行通所であるため、活動する機会は持っていない。
③⑩	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		・児童発達支援センターの相談部門である発達支援課が会議等に参加している。	
③⑪	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・支援項目リストを利用し、支援内容を保護者と共有したり確認したりする機会を持っている。	
③⑫	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		・支援項目リスト利用し共有を図るとともに、クラスルームや学習会で保護者の理解を深めている。 ・家族支援の一貫として、保護者の視覚支援の作成日を設けている。	
③⑬	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・適切に実施できている。	
③⑭	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		・適切に対応している。	
③⑮	・定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・保護者から普段の様子を聞き取りながら、子どもへの関わり方などを一緒に考えている。	

保護者への説明責任等	③⑥	親の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同志の連携を支援している	○		・OBが開催している子育てのお話会の情報を提供している。
	③⑦	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・子どもの様子に関する相談は、通所時に相談しやすいように職員配置をしている。 ・運営等に関する申し入れなどについては、相談窓口を重要事項説明書の中で周知している。
	③⑧	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・つみきだよりやのびのび通信の発行とつみき安心メールを活用して発信している。
	③⑨	個人情報の取扱いに十分注意している	○		・適切に対応している。
	④⑩	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・子どもや保護者にとってわかりやすい方法を考えて対応している。
	④⑪	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関われた事業運営を図っている	○		・今後、施設外活動などの機会を通して、地域に関われたセンターとなるよう検討していく。
非常時等の対応	④⑫	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		・安全計画にのっとり、訓練を実施している。
	④⑬	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・定期的に家族も参加できる訓練を実施している。
	④⑭	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状態を確認している	○		・入所の際に事前に確認をしている。
	④⑮	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		・医師の指示書に基づく対応は行っていないが、保護者との面談により必要な情報を入手し、対応している。
	④⑯	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・事象があった際は、センター職員で共有し、直ちに対応し、再発防止に努めている。
	④⑰	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・職員の研修を実施し、適切な対応についてセンター全職員が共有している。
	④⑱	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		・水分補給時に姿勢保持のためにベルトで固定して支えるなどの対応をすることがあるが、必要な時には保護者に説明して、支援計画にも記載し了解を得ている。

○ この「児童発達支援センターつみきにおける自己評価結果（公表）」は、児童発達支援センターつみき全体で行った自己評価です。